

令和6年11月1日(金)

- ◆公式代表団一行は、市長職務代理者 中田副市長一行とともにロサンゼルス港に赴き、ロサンゼルス市・港に対する表敬訪問を行った。
- ◆なお、当初は、ロサンゼルス市議会議場においてロサンゼルス市への表敬訪問を、全米日系博物館においてロサンゼルス港主催の昼食会を、それぞれ予定していたが、この日開催されたロサンゼルス・ドジャースの優勝パレードがロサンゼルス市役所を起点に出発することとなったため、予定を急遽変更し、ロサンゼルス港において、ロサンゼルス市・港への表敬訪問、昼食会を合わせて実施することとなった。

ロサンゼルス港(表敬訪問・昼食会・視察)

- 時 間 11月1日(金)午前11時30分から午後4時30分
- 場 所 ロサンゼルス港
- 対応者 エリン・ブロマギム ロサンゼルス市副市長
 ティム・マコスカー ロサンゼルス市議会議員
 ユージーン・セロカ ロサンゼルス市港湾局長 ほか

ロサンゼルス港では、名古屋・ロサンゼルスの両市・両港の提携65周年を記念し、ティム・マコスカー ロサンゼルス市議会議員、青島在ロサンゼルス日本国総領事館首席領事、市長職務代理者 中田副市長、田中議長、エリン・ブロマギム ロサンゼルス市副市長、ユージーン・セロカ ロサンゼルス港湾局長、葛山名古屋港管理組合建設部技術調整担当部長からそれぞれ挨拶、記念品の交換を行った後、昼食会を経て、ロサンゼルス港の視察を行った。主な概要は下記のとおりである。

■田中議長による挨拶(概要)

本日はこのような素敵な場所で、皆さんとお会いできる機会を設けていただき、誠にありがとうございます。ロサンゼルス港と名古屋港が1959年に姉妹港となってから、65周年の記念すべき年を迎えることができ

ました。皆様のおかげで、今日の日があると思っております。この場をお借りして、あらためて感謝申し上げます。これまで積み重ねてきた友好・交流がより一層深まり、未来に向かって、さらに強い親善の絆で結ばれますことを強く願っております。

また、去る 10 月 18 日には、ロサンゼルス港湾局の皆様が名古屋へお越しいただき、私を昼食会にご招待いただきました。昼食会では、とても素晴らしい記念品も頂戴し、あまりの感動に夜も眠れない程でありました。そのご厚意に大変感激いたしております。いただきました記念品は、議長室の一番映える場所に飾らせていただいております。本当にありがとうございました。

本日は、ロサンゼルス港湾局からいただいた記念品の輝きと同様に、日本の伝統美の一つである名古屋扇子をお持ちしました。18 世紀からの伝統工芸品である扇子は、日本では、未広がり（未だ広がっていない）の形をしていることから、今後ますます発展していくという意味合いで、特別な日の贈り物とされております。

名古屋港とロサンゼルス港は、1959 年に姉妹港として提携し、今年で 65 年となりました。これまでの長い年月の中で、名古屋港とロサンゼルス港は協力し、助け合いながら、大きく成長することができたことをうれしく思います。昨年、ロサンゼルス港と名古屋港との覚書が更新されました。環境面で持続可能な取り組み、貿易の拡大、港湾運営の効率化など、様々な分野で親密に協力し、情報を共有することについて、引き続き合意した旨を聞き及んでおります。今後ともロサンゼルス港と名古屋港が協力・連携して、共に歩んでいけるものと期待しています。

ロサンゼルス・ドジャースの優勝、おめでとうございます。そして、本日は、どうぞ、よろしく願いいたします。



【田中議長の挨拶の様子】

【表敬訪問・昼食会の様子】

■会場



【ロサンゼルス港湾局内の屋外会場にて表敬訪問・昼食会を開催】



【名古屋港・ロサンゼルス港の姉妹港提携30周年を記念した灯籠】

■名古屋・ロサンゼルス両市・両港の姉妹提携65周年を記念した挨拶



【ティム・マコスカ議員】



【青島首席領事】



【市長職務代理者 中田副市長】



【エリン・ブロマギム副市長】



【ユージーン・セロカ港湾局長】



【葛山名港管理組合担当部長】

※各人からは、両市・両港の姉妹提携65周年を祝福するとともに、今後も良好な関係が末永く続くよう祈念する旨の挨拶があった。

■名古屋・ロサンゼルス市の両市・両港による記念品交換



←【名古屋市会からロサンゼルス市議会へお渡しした名古屋扇子・手ぬぐい】

【ロサンゼルス市・港側からは木箱、歓迎証明書、ロサンゼルス・ドジャースのユニフォームなどをいただき、名古屋市側からは名古屋扇子や有松絞の品などをお送りした】

【視察の様子】



【視察のため乗船した船】

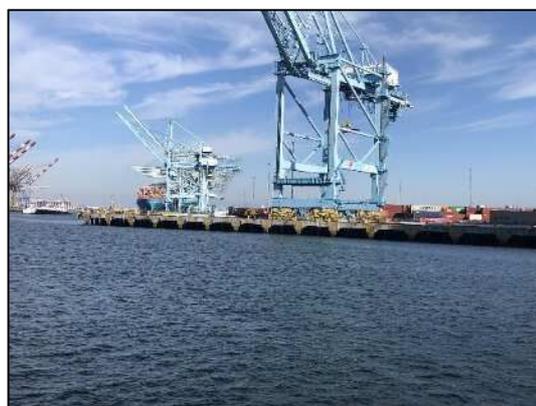


【ロサンゼルス市港湾局から姉妹提携65周年に際し、訪問の所感などについて取材を受ける田中議長】

■乗船してロサンゼルス港一帯を視察したほか、港湾局内にあるサイバーレジリエンスセンターにおいて、サイバーセキュリティ対策について説明を聴取した。

■サイバーセキュリティ対策については、先般、名古屋港コンテナターミナルにおいてサイバー攻撃を受け作業停止を余儀なくされた事例がっており、喫緊の課題とされている。

■ロサンゼルス港湾局のサイバーレジリエンスセンターは、全米港湾協会から受賞を受けるなど、最新鋭のセキュリティシステムを有しており、港湾局内部のセキュリティ対策は勿論のこと、港湾関係者とも連携を図り、緊密なネットワークを構築していることが特徴である。



【コンテナターミナルの様子】



【ロサンゼルス市港湾局職員はじめ皆さんと】

令和6年11月2日(土)

- ◆公式代表団一行は、ウエスト・フィールド・センチュリー・シティに赴き、市長職務代理者 中田副市長一行とともに、名古屋デー2024 エクスプロア・ナゴヤ・セントラル・ジャパンに参加した。
- ◆名古屋デー2024参加後、フェアモント・センチュリー・プラザ・ホテルに赴き、市長職務代理者 中田副市長一行とともに、姉妹都市提携65周年記念レセプション・夕食会に参加した。

名古屋デー2024 エクスプロア・ナゴヤ・セントラル・ジャパン

■時 間 11月2日(土)午前11時から正午

■場 所 ウエスト・フィールド・センチュリー・シティ

■ナゴヤデー2024 エクスプロア・ナゴヤ・セントラル・ジャパンの概要

名古屋デー2024 エクスプロア・ナゴヤ・セントラルジャパンは、名古屋市・ロサンゼルス市の姉妹都市提携65周年を記念し、ウエスト・フィールド・センチュリー・シティ内のイベント広場において、本市の伝統文化や観光魅力を発信し、姉妹都市名古屋の認知度向上を目指すとともに、ロサンゼルスから名古屋を目的地とする訪日旅行者を増加させるためのイベントである。

本イベントのオープニングセレモニーにおいては、照子・ワインバーグ ロサンゼルス・名古屋姉妹都市委員会委員長、曾根在ロサンゼルス日本国総領事、市長職務代理者 中田副市長、田中議長、エリン・ブロマギム ロサンゼルス市副市長からそれぞれ挨拶、ロサンゼルス市と名古屋市において記念品の交換を行った。主な概要は下記のとおりである。

■田中議長による挨拶(概要)

名古屋市会議長の田中里佳でございます。本日は、名古屋デー2024にお越しいただきまして、誠にありがとうございます。エリン・ブロマギム ロサンゼルス市副市長、曾根総領事をはじめ関係者の皆様にご臨席いただき、感謝いたします。

本日は、私のほかに名古屋市会を代表して3名の議員が参加しておりますので、はじめに、ご紹介させていただきたいと存じます。自民党の中里高之議員です。名古屋民主の小川としゆき議員です。公明党の金庭宜雄議員です。

照子・ワインバーグ様はじめロサンゼルス・名古屋姉妹都市委員会(LANSCA)の皆様のご尽力により、このように盛大に名古屋デーが開催できましたことに、心から御礼申し上げます。

本日は、日本舞踊のパフォーマンスやコスプレのショーのほか、太鼓の演奏などの日本の伝統文化を披露します。また、茶道体験などの日本文化の体験もしていただけます。私が住むまち名古屋は、伝統ある武家の文化がある一方、アイドルやコスプレなどのポップカルチャーも盛んで、日本の大都市の中でも、非常に楽しい街の一つです。この名古屋デーが、皆様にとって、名古屋自体、そして、名古屋の歴史・文化などを知っていただく機会となることを願います。

実は私は、20年前の2004年の45周年の際にも、名古屋市会代表団としてロサンゼルス市を訪問させていただきました。こうして20年を経た今日、私はこの場にいます。名古屋市・ロサンゼルス市の両市の友好・交流が一層深まり、未来に向かって、より強い親善の絆で結ばれていくことをとてもうれしく思います。

最後に、本日、ご出席の皆様のご健勝とご活躍をお祈り申し上げ、私のご挨拶とさせていただきます。ありがとうございました。



【田中議長の挨拶の様子】

【ナゴヤデー2024 エクスプロア・ナゴヤ・セントラル・ジャパンの様子】

■オープニングセレモニー



【地元の団体による和太鼓の演奏
により、セレモニーが開幕】



【日本の国歌斉唱】



【アメリカの国家斉唱】



【照子・ワインバーグ委員長の挨拶】



【曾根総領事の挨拶】



【市長職務代理者 中田副市長の挨拶】



【エリン・ブロマギム副市長の挨拶】



【エリン・ブロマギム副市長からの
記念品贈呈の様子】

※各人からは、両市の姉妹都市提携65周年を祝福するとともに、名古屋デー2024のイベントにより名古屋の魅力を発信できることを期待する旨の挨拶があった。

■ブース会場



【名古屋市・港などの行政関係のブースや名古屋めしを含めた日本食を紹介する民間関係のブースなど計10ブースほどが出店。休日でも人通りの多いショッピングモール内のイベント広場という地の利を活かし、各ブースとも大変盛況であった。】

姉妹都市提携65周年記念レセプション・夕食会

■時 間 11月2日(土)午後6時から午後9時

■場 所 フェアモント・センチュリー・プラザ・ホテル

■姉妹都市提携65周年記念レセプション・夕食会の概要

姉妹都市提携65周年記念レセプション・夕食会は、姉妹都市提携65周年を記念し、ロサンゼルス・名古屋姉妹都市委員会(LANSCA)とロサンゼルス港湾局の共催により開催されるレセプション・夕食会である。

本レセプション・夕食会においては、照子・ワインバーグ ロサンゼルス・名古屋姉妹都市委員会委員長、曾根在ロサンゼルス日本国総領事、市長職務代理者 中田副市長、田中議長からそれぞれ挨拶を行った。主な概要は下記のとおりである。

■田中議長による挨拶(概要)

皆さん、こんばんは。名古屋市会議長の田中里佳でございます。本日は、お忙しい中、名古屋市・ロサンゼルス市姉妹都市提携65周年記念レセプション・夕食会にご参加いただきまして、ありがとうございます。

本日の、名古屋デー2024は、大盛況であり、両市の友好関係を一層深めることができたと思います。これは、ロサンゼルス・名古屋姉妹都市委員会(LANSCA)をはじめとする関係各位のご尽力のおかげであり、心から感謝申し上げます。

ロサンゼルス市と名古屋市とは、永きにわたる交流を続けてきました。今年が姉妹都市提携65周年という節目の年にあたるわけですが、今回の訪問を通じまして、皆様が名古屋の



【田中議長の挨拶の様子】

ことを大切に思っただいてお気持ちが強く伝わってまいりました。また、名古屋港とロサンゼルス港は、1959年に姉妹港として提携し、今年で65年となりました。これまでの長い年月の中で、名古屋港とロサンゼルス港は協力し、助け合いながら、大きく成長することができたことをうれしく思います。65周年という節目を機に、今後、ますます、両市の友好・交流が深まり、未永く続くことを願ってやみません。

最後になりますが、本日、ご出席の皆様のご健勝とご活躍をお祈り申し上げ、私のご挨拶とさせていただきます。

【姉妹都市提携65周年記念レセプション・夕食会の様子】

■レセプション・夕食会の挨拶



【照子・ワインバーグ委員長の挨拶】



【曾根総領事の挨拶】



【市長職務代理者 中田副市長の挨拶】

※各人からは、両市・両港の姉妹提携65周年を祝福するとともに、当日開催された名古屋デー2024 エクスプロア・ナゴヤ・セントラル・ジャパンが無事成功したことを含めロサンゼルス・名古屋姉妹都市委員会はじめ皆さんの多大なる協力について感謝の意を表する旨挨拶があった。

■ロサンゼルス・名古屋姉妹都市委員会(LANSCA)への記念品贈呈



【田中議長・市長職務代理者 中田副市長から、照子・ワインバーグ委員長及びピーター・ランゲンバーグ元委員長に対し、記念品を贈呈した。ロサンゼルス・名古屋姉妹都市委員会(LANSCA)は、長きにわたり、ロサンゼルス・名古屋の姉妹都市交流の架け橋として、教育・文化・経済などの様々な分野において、ご尽力いただいている】



←【姉妹都市提携65周年記念レセプション・夕食会に協賛いただいた企業・団体のロゴが記されたバックボードを背に、照子・ワインバーグ委員長・市長職務代理者 中田副市長団の皆さんとともに】

令和6年11月3日(日)

- ◆公式代表団一行は、ロサンゼルス動植物園を訪問し、動植物園施策調査として園内の視察を行った。
- ◆ロサンゼルス動植物園での調査終了後、カリフォルニア科学センターを訪問し、科学館施策調査として館内の視察を行った。

ロサンゼルス動植物園(動植物園施策調査)

- 時 間 11月3日(日)午前9時30分から午前11時
- 場 所 ロサンゼルス動植物園
- 対応者 ダン・キーフ 氏
ロサンゼルス動植物園 教育担当部長
バイロン・ワスティグ 氏
ロサンゼルス動植物園 爬虫類担当学芸員

ロサンゼルス動植物園では、バイロン・ワスティグ学芸員からは本市の東山動植物園においても新たに飼育が開始されたコモドドラゴンの飼育方法などを中心に、また、ダン・キーフ教育担当部長からは感覚過敏などの来園者に適切な対応をするための設備の概要を中心に、それぞれ説明を聴取・質疑応答を行いながら視察を行った。主な概要は下記のとおりである。

■ロサンゼルス動植物園について(概要)

ロサンゼルス動植物園は1966年に開園、毎年200万人近くが訪れるロサンゼルス有数の人気施設である。動物は270種以上・2,100頭が飼育されており、その多くは希少種や絶滅危惧種である。

2022年には、感覚過敏などの来場者に対して適切な対応を行う施設として、世界的に知られるNPO団体であるカルチャー・シティから、センサー・インクルーシブ認証を受けた動植物園となるなど、先進的な取り組みを行っている。

【視察の様子(コモドドラゴン)】

■コモドドラゴンの展示・飼育方法等についての説明

コモドドラゴンは、インドネシア原産の世界で一番大きい爬虫類とされており、ロサンゼルス動植物園の中でも一番人気となっている。また、ロサンゼルス動植物園において、非常に長い間、展示・研究をしている動物でもあり、アメリカの動物園で初めて繁殖に成功したのもロサンゼルス動植物園である。

現在は、オスの7歳を一頭飼育している。未だ成長途中であり、大きくなると最終的には3メートル半ぐらいにまでなると思われる。

コモドドラゴンは、肉食であり、ネズミ、ウサギや鳥の肉など様々な肉を食べる。また、ハイエナと同様、新鮮な生肉だけでなく、他の動物が食べ残した腐肉なども食べる。

ご覧いただいているのは、牛の骨についた肉を食している姿である。実は、骨に肉はほとんどついておらず、餌を与えているというよりは、健康維持のため、骨から肉を削ぎ取って食べることを通じて、顎や上半身の運動をさせている。ネズミや鶏肉などをまるごとエサとして出すと、柔らかいところだけを食べてしまい、あまり筋肉を使うことはしないため、今日みたいに定期的に骨から肉を削ぎ取って食させるを行っている。



【説明を聴取する様子】



【牛の骨から肉を削ぎ取るコモドドラゴン。健康維持のため、顎や上半身の運動を行っている。1時間ほどかけて、肉を削いで食べてしまうとのこと】

コモドドラゴンが肉を食する際には、食べ物を砕くのではなく、すりつぶしたり、裂いたり、切ったりして食べている。歯を実際に見てもらうと分かるが、引っかかる感じのある個所があり、その部分を使って食べている。コモドドラゴンは頭がいい動物であり、食べ物を知覚する能力が高く、特に嗅覚が優れている。



【生育したコモドドラゴンの歯】

■意見交換

【質問】

これまでのロサンゼルス動植物園でのコモドドラゴンの飼育経験を踏まえて、飼育するにあたっての留意点としてはどんなところがあるか。また、どんな病気にかかりやすいのか。

【回答】

コモドドラゴンの健康維持の観点からは、他の爬虫類と同様、日光浴ができる環境が非常に重要となる。ロサンゼルス動植物園では、現在視察しているインドア・ヤードのほか、アウトドア・ヤードを設けており、そこで、日光浴ができる環境を確保している。

病気に関しては、コモドドラゴンは病気に対して耐性の高い動物であり、がんなどにかかることは稀である。また、よく動物にありがちな外傷などから細菌が体に入ることにより、病気になることも、コモドドラゴンについては、ほぼみられない。経験的には、やはり、生育環境(温度が低い、十分な日光があたらないなど)が原因で発症する病気はいくつかみられる。



【質疑の様子】

なお、医療行為を行うためのスペースも展示室の隣に設けてあり、レントゲン、採血、超音波検査が、コモドドラゴンに直接接触れることなく実施できるようになっている。直接接触れると噛みつかれるリスクが生じ、実際に他の動物園では、コモドドラゴンにスタッフが噛みつかれる事故が起きている。

【視察の様子(センサリー・インクルーシブに係る取り組み)】

■カームダウンスペースの設置についての説明

カームダウンスペースについては、園内の中でも、比較的音が大きいと思われる子どもの遊び場の中に設備を1台設置している。

このカームダウンスペースの基本デザインは、NPO 団体のカルチャー・シティが行い、それを基にロサンゼルス動植物園側がアレンジを加えたものである。

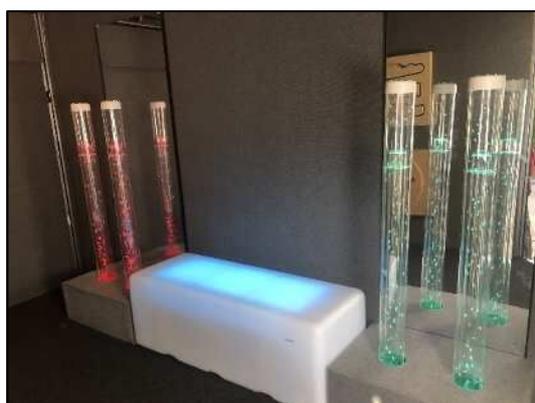
注意欠陥多動性障害・自閉症スペクトラム障害などの発達障害・精神障害などやその疑いのある子どもたちは、音や光などに対する感覚が過敏であることが多く、動物の鳴き声や人混みなどを契機にパニックになることがある。そのような子どもたちが、静かな場所で心を落ち着けたい場合に、この設備を活用するものである。

設備内は、パニックになった子どもが気持ちを落ち着かせることができるような空間となっており、おもちゃで遊ぶことができるような環境としている。

設備に要した費用は約5万ドルであり、全額寄付で賄っている。



【トレーラー型のスペース】



↑

【トレーラー内。(写真上)暗い空間の中、色とりどりの照明が照らされている。(写真下)おもちゃが壁面に設置されている】

■意見交換(カームダウンスペースの設置について)

【質問】

園内にカームダウンスペースを設置しようと思ったきっかけは何か。また利用者はどのぐらいいるのか。

【回答】

利用者数については、まだ、2・3か月前に始めたばかりの試行期間ということもあり人数のデータはない。注意欠陥多動性障害・自閉症スペクトラム障害の方々等は、一般社会においてまだまだ色々と制約を強いられながら日常生活を送っていると思うが、ロサンゼルス動植物園においては、障害がない方々と同様に、障害を持っている方々も楽しめるような環境づくりを目指していることから、カームダウンスペースの設置に至った。来園者の中には、来園して初めてこういった設備があることを知り安心される方々もいる。

■その他センサー・インクルーシブの取り組みについての説明

ロサンゼルス動植物園では、NPO 法人のカルチャー・シティとの連携のもと、カームダウンスペースの設置のほかに、園内表示の設置や園内を楽しんでいただくためのグッズの入ったバッグを用意するなどの取り組みも行っている。

はじめに、園内表示の設置についてであるが、園内には、動物の鳴き声などが比較的大きいラウド・エリアとして3か所ほどの表示が、また、比較的動物の鳴き声などが静かなクワイエット・エリアとして3か所ほどの表示がある。ラウド・エリアの表示には、「このエリアは、動物の鳴き声などが大きいことから、音に敏感な方は、ここを早く通り過ぎた方がよい」といった旨の記載がある。また、感覚過敏の方々は、音だけでなく、臭いや鳥が頭上を飛ぶことなどでもパニックになることがあることから、今後の課題として、そういったエリアにも表示設置の検討をしているところである。

次に、園内を楽しんでいただくための用品等であるが、おもちゃ、動物園のガイド、詳細冊子が中に入っているギフトバッグを無料でプレゼントしているほか、貸出している用品もある。貸出している用品としては、自分の気持ちや言葉を表現できない時に相手に伝えるためのカード、ヘッドフォン、

気持ちを静めるためのおもちゃなどが1つのバッグに収容してある。用品については、NPO 団体のカルチャー・シティのアドバイスに基づいて用意している。



【感覚過敏の方々向けの用品がある旨の表示が園内の壁の所々に表示されている】

障害を持っているかどうかを外見からは分からないことが多いため、バッグの中には、自分が障害をもっている旨を表示するカードが入っている。その表示カードを身に着けるかどうかは来園者の自由である。表示カードを身に着けた場合には、そのカードを見た園内スタッフが障害を持っている来園者であると認識できることから、配慮などを行うことができる。カードの表記については、他の来園者から、障害を持っていることを理由に差別を受ける可能性を考慮し、直接的な表現を避けるなど、他の来園者からは分かりづらくするような工夫をしている。なお、用品に対する需要は想定していたよりも多くあり、我々が障害に対するニーズを改めて認識する機会にもつながった。

■その他アメリカンアリゲーターやオーストラリア原産の動物などを視察し終了した。



【ダン・キーフ教育担当部長と】

カリフォルニア科学センター(科学館施策調査)

■時 間 11月3日(日)午後1時から午後2時15分

■場 所 カリフォルニア科学センター

■カリフォルニア科学センターの概要

カリフォルニア科学センターは、子どもたちやその家族、教育関係者などに向けた教育施設として、体験型の展示や探求型の教育プログラムの提供などを通じて、科学への好奇心や学習意欲を促進することを目的としている。常設展と特別展を設けている。

常設展の主要な展示としては、生き物の生態を学ぶため、動物の展示と体験型の展示を一体に楽しむことが出来る「エコシステム」、細胞をテーマに、アメーバから人間に至るまで、同じ生命体としての共通項やつながりを通じて学ぶことが出来る「ワールド・オブ・ライフ」、発明と革新がこれまでもたらしてきた恩恵と成果を振り返りながら、技術的進歩の大切さを学ぶことが出来る「クリエイティブ・ワールド」、航空機や宇宙船などをテーマにその模型展示や体験型の展示を通して、科学の原理がいかに役立っているかを学ぶことが出来る「エア&スペース」がある。

特別展は、アメリカ国内や世界各国の博物館の展示物をセンター内のギャラリーにおいて展示している。

同センター最大の展示としては、実際に宇宙へ行ったスペースシャトル・エンデバーがある。訪問時を含め当面の間は、スペースシャトル・エンデバーの展示方法をこれまでの横置き展示から縦置き展示に変更するための大規模工事を行っており、実際に見ることは出来ないが、スペースシャトルをテーマに、歴史的な業績や卓越した技術を学ぶことや体験型の展示を通じて宇宙について学ぶことが出来る。

開館時間は午前10時から午後5時までとなっており、感謝祭・クリスマス・元旦の3日間を除き年中開館している

■視察の主な概要は下記のとおりである。

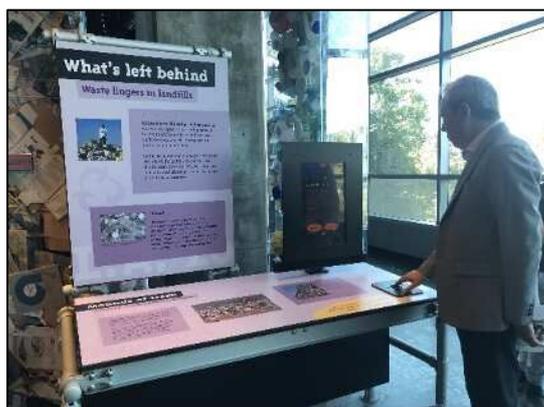
【視察の様子】



【センターのエントランス。開放的な吹き抜け構造でフロアは3階まである】



【ロサンゼルス地域をもとに、ごみやエネルギーに関する環境問題について学ぶことのできるエリア】



【埋立地のごみの山は分解速度が通常より遅く、いつまでも残ってしまうことについての説明。ごみ減量の重要性を学ぶことができる】



【迷路を使った体験型の展示。野生動物が都市(迷路)を潜り抜けて生きていくことがいかに大変であるか体験しながら学ぶことができる】

【センター外には都市公園が整備されており、野鳥やリスなどが生息していることが確認できる。同センターでは、都市公園のように造園された自然環境と天然の自然地域との生態系の違いに焦点を当て自然科学分野の学習機会を提供している】





【スペースシャトル・エンデバーの功績とスペースシャトル・エンデバーに搭載された科学技術を紹介するエリアの様子】



【現在、カリフォルニア科学センターの展示品となっているスペースシャトル・エンデバーを、NASA(テキサス州ヒューストン)から、カリフォルニア科学センターまでどうやって運搬してきたかについて、パネル展示や当時の映像記録から紹介している様子。写真(左)は、飛行機の上にスペースシャトル・エンデバーを搭載させ、ロサンゼルス国際空港まで運んだときの映像の様子。写真(右)は、スペースシャトル・エンデバーをロサンゼルス国際空港からロサンゼルス市街地を通りカリフォルニア科学センターまで運んだときを含め運搬方法の各行程をパネル展示にて紹介しているもの】



【スペースシャトルに搭載されるトイレの展示。トイレについての解説のほか、排泄後の処理方法(消臭・殺菌技術)などについても説明してある】



【ジュノー探査機の1/4スケールの模型。ジュノー探査機は2016年7月4日に木星に到着し現在も木星を周回している。この探査機に盛り込まれた科学技術とそれにより得られた木星に関する知見を学ぶことができる】



【地球に帰還の際、水面着陸するためのカプセル型の装置。パラシュートやバルーンなどにより、着陸の際の衝撃をやわらげて着陸するための技術などが紹介されている】

【カリフォルニア科学センターの前で】



おわりに

名古屋市会ロサンゼルス市姉妹都市提携65周年記念公式代表団として、ロサンゼルス市及びサンディエゴ市における表敬訪問、姉妹都市提携65周年記念交流行事への参加及び調査は、関係者の多大なご協力を得て、無事終えることができた。

訪問先においては、関係者の皆様から手厚く歓迎をいただき、また、今後の両市・両港における友好・交流について率直に意見交換することができ、姉妹都市交流・姉妹港交流に対する友好・交流への両市・両港の思いを確認・実感することができた。

さて、本公式代表団の派遣後になるが、令和7年1月に発生した山火事によりロサンゼルス市及びその周辺に甚大な被害が発生した。その報に接し、名古屋市会ではロサンゼルス市長及び議長に対し見舞状をお送りし、本市全体では、災害見舞金の贈呈やロサンゼルス市へ救援金を贈るための募金活動などを行った。

本市とロサンゼルス市が姉妹都市提携を行った1959年は、伊勢湾台風により本市に甚大な被害が発生した年でもあった。その折には、ロサンゼルス市から本市に対し義援金や物資など多大なるご支援をいただいている。

姉妹都市提携から65年が経過した今でも、姉妹都市提携当初からの変わらない交流・思いが続いているのは、これまでの不断の交流の賜物であると、今回の派遣を振り返り、改めて実感した次第である。

今後も幅広い分野で交流が進展し、また苦楽を共にしながら両市の友好関係がより一層深まるよう、名古屋市会としても、真摯に姉妹都市交流事業に臨んでまいりたい。

最後に、今回の派遣に伴う国際交流に対して、多大なご尽力を賜った関係者すべての方々に心から感謝申し上げる。